



認知症へのかかわり

赤岩荘地域包括支援センター

保健師

杉本 尚野

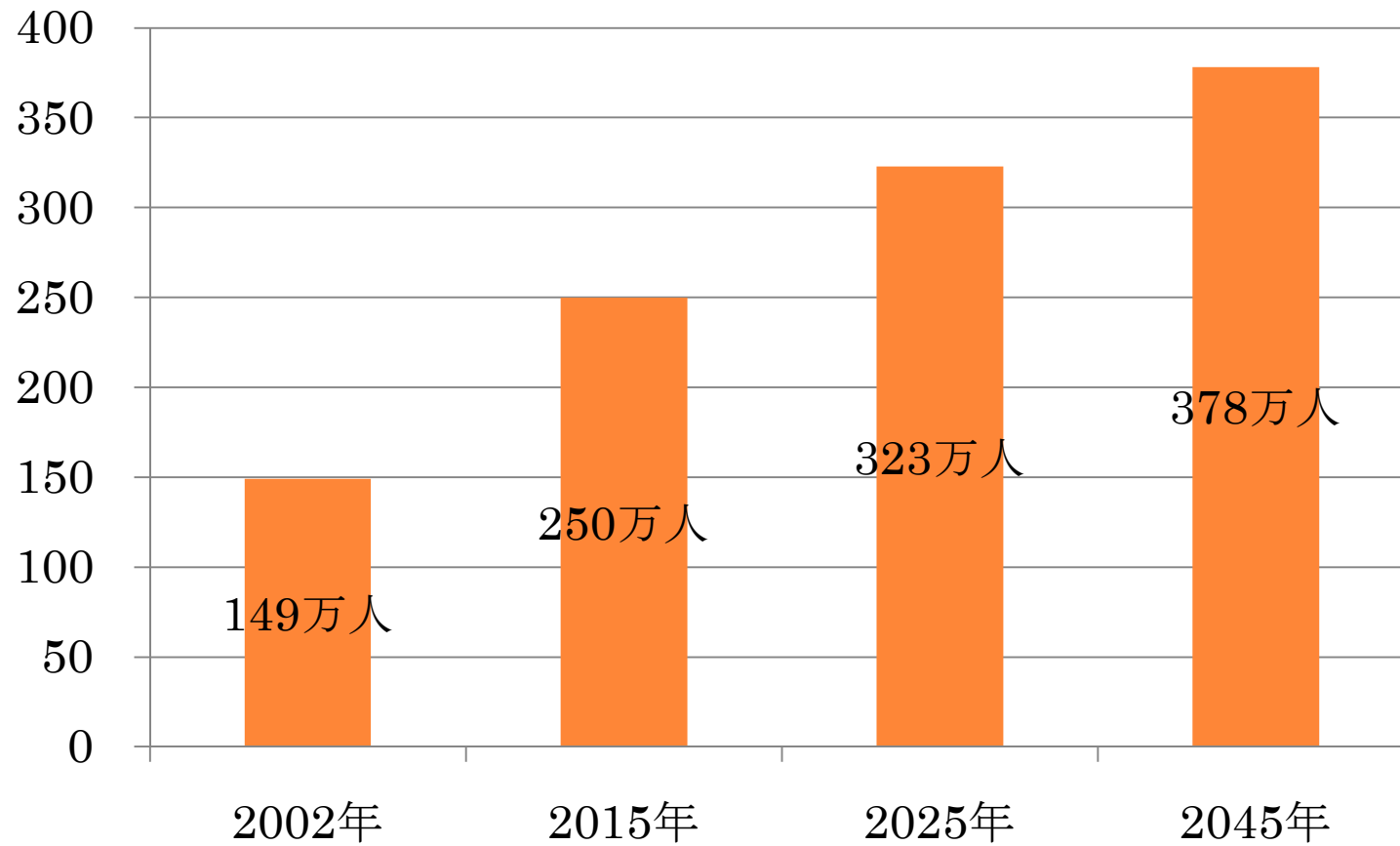
本日の流れ

- 「認知症を知り、地域をつくる10か年」の構想
- 赤岩荘地域包括支援センターが関わった認知症を抱える方への支援
- 今後の認知症への取り組み



認知症高齢者数

単位：万人



出典：平成15年6月 厚生労働省老健局総務課推計

「認知症を知り、地域をつくる10か年」

2009年（中間年）

2009年度 到達目標

- 認知症について学んだ住民等が**100万人程度**に達し、地域のサポーターになっている。
- 認知症になっても安心して暮らせるモデル的な地域が全国各都道府県でいくつかできている。

「認知症を知り地域をつくる10か年」

2014年度 到達目標

認知症を理解し、支援する人（サポーター）が地域に数多く存在し、すべての町が認知症になっても安心して暮らせる地域になっている。

キャンペーンの主な取り組み

1. 「認知症サポーター100万人キャラバン」による住民・職域・学校講座
2. 「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン
3. 認知症の人の「本人ネットワーク」支援
4. 認知症の人や家族の力を活かしたケアマネジメントの推進



認知症サポーター100万人キャラバン

《キャラバンメイト養成研修》

- ◆ 実施団体: 都道府県、市町村、全国的な職域団体等
- ◆ 目的: 地域、職域における「認知症サポーター養成講座」の講師役である「キャラバンメイト」を養成
- ◆ 内容: 認知症の基礎知識等のほか、サポーター養成講座の展開方法、対象別の企画手法、カリキュラム、協力機関の探し方等をグループワークで学ぶ。

《認知症サポーター養成講座》

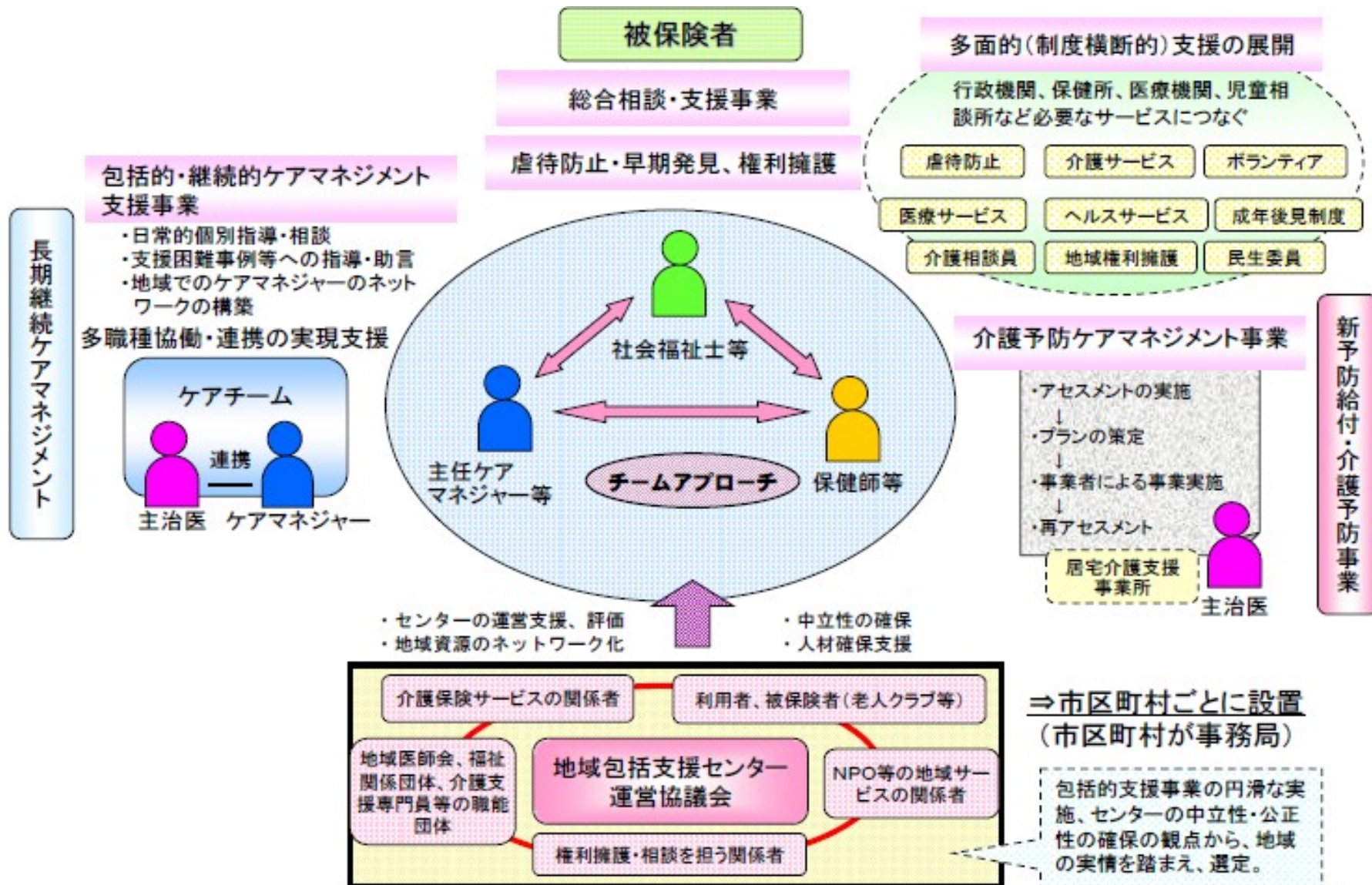
- ◆ 実施団体: 都道府県、市町村、職域団体等
- ◆ 対象者: <住民> 自治会、老人クラブ、民生委員、家族会、防災・防犯組織等
 - <職域> 企業、銀行等金融機関、消防、警察、スーパーマーケット、コンビニエンスストア、宅配業、公共交通機関等
 - <学校> 小中高等学校、教職員、PTA等

メイト・サポーター合計

1,709,924人（平成22年3月31日現在）

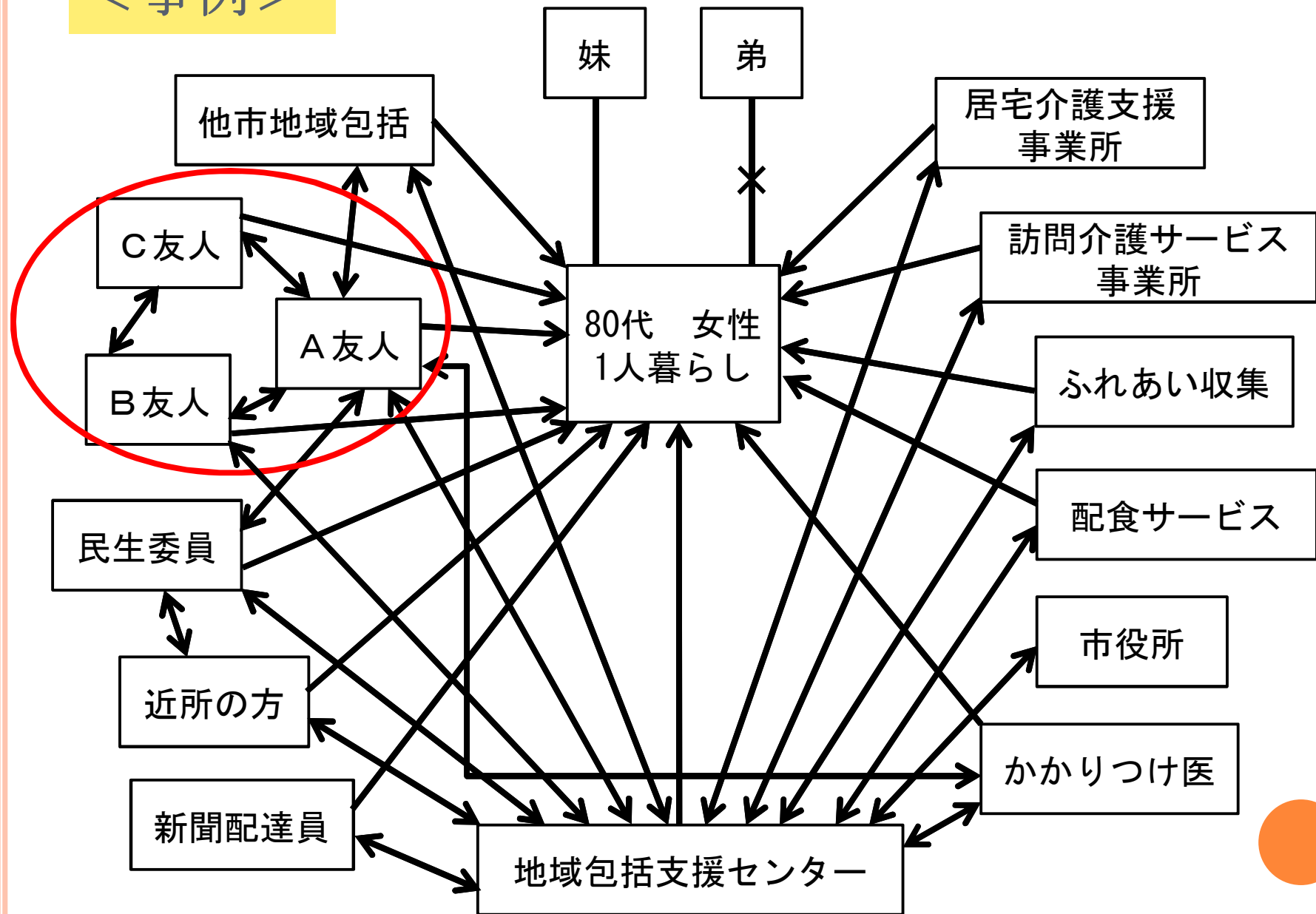


地域包括支援センター(地域包括ケアシステム)のイメージ



出典:介護予防マニュアル(改訂版)

<事例>

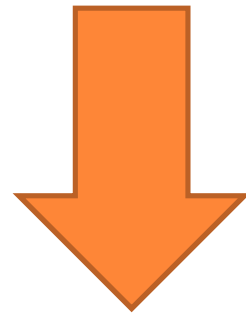


今回のケースの良かった点

- 周囲の人の気づき
- 周囲の人の認知症に対する理解
- 様々な機関との連携



認知症は他人事ではなく、いつ自分たちの
身に起こるかわからない



みんなで支えあえる地域



脳の若返り教室



老人クラブ認知症予防 健康講座



赤岩荘地域交流センター



今後の認知症への取り組み

- 早期受診・早期診断のアドバイス
- 家族交流会
- 予防教室





ご清聴ありがとうございました

